

# 発達障害・トラウマの臨床と養育者支援

期 日：2018年12月1日(土)・2日(日)

受講対象：教育・医療・相談・福祉・保育の各機関・現場等で子どもにかかわる専門家の方々、ならびに大学生・大学院生など本テーマに関心のある方

定 員：120名(定員になり次第締切りますのでホームページなどでご確認ください)

受講料：12,000円(税込み) ※昼食は各自おとりください

主 催：公益財団法人 明治安田こころの健康財団 TEL 03-3986-7021

会 場：福岡ビル 9階大ホール

福岡市中央区天神1丁目11番17号 ※詳細地図は受講証に添付いたします

【アクセス】西鉄福岡(天神)駅より徒歩3分/地下鉄天神駅(東3b出口)より徒歩1分

\*日本臨床心理士資格認定協会「短期研修機会(ワークショップ)」  
承認番号:W29111  
承認期間:平成29年7月1日  
~平成34年6月30日

## 講師陣ご紹介

\*\*\*ご企画//山下 洋 先生：九州大学病院子どものこころの診療部 特任准教授\*\*\*

岡田 俊 先生：名古屋大学医学部附属病院 親と子どもの心療科 准教授 (50音順)

杉山 登志郎 先生：福井大学子どものこころの発達研究センター 客員教授

友田 明美 先生：福井大学子どものこころの発達研究センター 発達支援研究部門 教授

森川 綾女 先生：TFTセンター・ジャパン代表 国連NGO-NOHE 人権大使

山下 亜紀子 先生：九州大学人間環境学研究院 准教授

## 発達障害・トラウマの臨床と養育者支援

神経発達障害のある方への早期支援と幼少期のアタッチメント形成の過程での心的外傷—発達性トラウマ障害の病態と治療は、養育環境との相互作用・エビジェネティックな過程の重要性において重なるところは大きい。養育環境においてもっとも重要な要素である応答的なペアレンティングや養育者の感受性は、周産期から始まる情緒的な絆の形成の過程から肯定的な影響を受ける一方、親のメンタルヘルスの問題、外傷的な体験、社会経済的な逆境など多くの阻害要因も存在する。

近年は周産期の親の脳機能の変化が養育行動やアタッチメント形成の過程にもたらす影響についてのエビデンスがニューロイメージング研究によって急速に蓄積されている。このような新たな知見は親子二人組・三人組(dyad, triad)を対象とし、親と子それぞれの神経発達の可塑性という2つの介入経路(two open windows)を活用し、治療的变化のための資源とする新たな臨床実践のあり方を示唆している。

本講座では例年、発達障害とトラウマの臨床をテーマとしてきたが、今回は子どもの発達障害特性や外傷性ストレスがペアレンティングに与える影響という視点から、発達神経科学、児童精神医学、心理学、社会学など多領域からのエビデンスと臨床経験にもとづく実践を紹介する。各講師は各領域の臨床と研究のエキスパートであり、一連の講義とディスカッションを通じて現在急速に広まりつつある養育者支援の臨床領域の全体像と将来について多くの示唆が得られるものと考えている。

	日程	時間	テーマ	講師(敬称略)
プログラム	12月1日(土)	13:00~14:30	発達脳科学から社会学をつなぐ養育者支援の実践	山下 洋
		14:45~16:15	お母さんの苦しさで支援を考える —ケアをめぐる社会学の議論から—	山下 亜紀子
		16:30~18:00	発達障害のある子の育ちと養育者による育みの支え —医療における支援をもとに—	岡田 俊
12月2日(日)	10:00~11:30	発達障害と愛着障害を併せ持つ児童への親子併行治療の実践	杉山 登志郎	
	12:30~14:00	子どもの健やかな育ちのための養育者支援 —アタッチメントとトラウマの脳科学的視点から—	友田 明美	
	14:15~15:45	トラウマケアと自己調節力を高めるツボと呼吸 —TFT(思考場療法)とHRV呼吸法—	森川 綾女	

※時間割・テーマ等が変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。